



いずみ野

令和元年10月25日発行
発行責任者 校長 松藤 朋治

「子供（の幸せ）がゴール」に向けて

校長 松藤 朋治

台風15号に続いて台風19号も凄まじい爪痕を残してしまいましたが、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、倒壊してしまったいずみ野田んぼにおけるほだの補修に多くの方々のご協力してくださり、本当にありがとうございました。

さて、10月2日、教育評論家の「夜回り先生」こと 水谷 修 先生にお越しいただいて、本校4・5・6年生および同じ中学校ブロックの新橋小学校・阿久和小学校の6年生を対象に特別授業をしていただきました。ESDの一環として企画した今回の特別授業の意図は、将来、持続可能な社会の担い手となる子供たちが、人権・福祉の視点から今大切にすべきことは何かを考え、これからの人生を大切にかつ主体的に生きていこうとする気持ちを育むことにありました。

水谷先生は、定時制高校教員時代から、夜の世界に身を置くことを覚えてしまった若者を昼の世界へ連れ戻す取組、いわゆる“夜回り”を28年間続けてこられました。また、毎日ひっきりなしに持ちかけられる相談にも応え、幾多の生命を救ってきました。ですから、水谷先生から発せられる言葉には、子供を大切にする情熱が込められていました。そして、子供たちに「誰かを幸せにするために生きよう。」「悩んでしまったら、一人で抱え込まないようにしよう。」「と熱弁を振るってくださいました。また、参観した保護者や教師に対して「子供に、美しく優しい言葉を掛けてあげてください。」「子供たちが認められて、褒めてもらえる学校づくりをしてください。」「と語ってくださいました。



▲ 握手を求める子供たち

余談になりますが、私は初任校の上菅田養護学校時代、水谷先生と一緒に肢体不自由の障がいがある高校生を担当していました（平成30年度学校だより12月号参照）。当時の特別支援教育はまだ発展途上で、毎日が試行錯誤の連続でした。教員の誰もが無我夢中で、「子供の幸せ実現のために」を合い言葉にただひたすら（当時の）障がい児教育に没頭していました。これはこうすべきだ、といった教育論を熱く語り合うことも度々ありました。おそらく、その頃の教育

ベクトルが、今の私の教育論（平成30年度学校だより6月号参照）に繋がっているように思います。これからも「子供（の幸せ）がゴール」の教育を続けていきたいと考えておりますが、地域・家庭・学校が同じ歩調で「上手な励まし」をすれば、教育効果は上がります。ぜひ、「子供と正面から向き合い、認め、褒め、愛情をもって育てる」ということを一緒にやっていきましょう。ご理解ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



▲ 水谷 修 先生

【「子供がゴール」に向けて】

- 1 子供と正面から向き合う
 - 2 正しく認め、褒める
 - 3 自信がつき、伸びる
 - 4 「愛情」をたっぷり注ぐ
＝自己有用感が湧出する
 - 5 プラスのスパイラルへ
- ※ 地域・家庭・学校が協働で